

6 3 3 1 - 9 2
平成 1 6 年 9 月 2 8 日

各関係機関の長
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除所長

平成 1 6 年度病虫害発生予報第 6 号について
平成 1 6 年度病虫害発生予報第 6 号を発表したので送付します。

平成 1 6 年度病虫害発生予報第 6 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。
発生予報の概要

作物名	病虫害名	発生量の 平年比	記載ページ
野菜・花き類	ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫	並	2
トマト	トマト黄化葉巻病		2
カンキツ類	ミカンハダニ	やや少	2
果樹全般	果樹カメムシ類	並	3
チャ	炭疽病	やや少	3
	チャノコカクモンハマキ	並	3
	チャハマキ	並	3
	チャノホソガ	やや少	3
	カンザワハダニ	やや多	3
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	3
	チャノキイロアザミウマ	並	3

作物の生育状況（9月中旬）

普通期水稲は乳熟期～黄熟期、トマト等施設野菜類は育苗期、温州みかんは収穫前、茶は秋芽生育期であった。

10月の気象予報

気温は平年並・降水量は平年並が多い、日照時間は平年並と予想されています。

（1か月予報 鹿児島地方气象台 9 / 2 4 発表）

発生予報の根拠および防除対策

野菜・花き類

1 ハスモンヨトウ等のチョウ目害虫（並）

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬のカンショでの発生面積率100%（平成98.1%）、食葉面積率22.9%（平成22.4%）は平成並である。
- 2) 9月中旬のダイズでの発生面積率100%（平成98.4%）、食害度24.7（平成21.9）は平成並である。
- 3) 西都市茶臼原に設置したフェロモントラップによる誘殺では、8月中旬～9月中旬にタバコガ・オオタバコガのピークが見られたが、ハスモンヨトウは平成並みであった。

[防除上の注意]

- 1) 幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、早期発見に努め若令幼虫期に防除する。

トマト

1 トマト黄化葉巻病

病害虫発生予察注意報第5号（平成16年9月6日発表）参照

[防除上の注意]

- 1) トマト主産地（中部・児湯地区）の8月の家庭菜園でのTYLCV発生圃率は約60%（県全域では36%）となっているので、育苗ほ・本ほともに厳重な警戒が必要である。
- 2) 生育初期（育苗期・定植初期）に感染すると被害が激しく、全滅する場合があるので、ハウスには必ず開口部に0.8mm以下の防虫ネットを設置する。できれば、0.4mm以下の目合いが望ましい。
- 3) 定植時には粒剤処理を行うとともに、栽培期間中を通してシルバーリーフコナジラミの防除を徹底する。また、黄色粘着トラップを設置し、シルバーリーフコナジラミの早期発見・密度抑制に努める。
- 4) 施設内外の雑草及び栽培植物はシルバーリーフコナジラミの寄主となるので、除草を徹底し栽培目的以外の不要な作物や観葉植物等を栽培しない。
- 5) 発病株は伝染源になるので、根ごと抜き取り、土中に埋めるかビニル袋に入れて枯れるまで密閉する。ウイルスは植物全体に存在しているので発病部位を除去しても伝染源になるため、必ず株全体を除去する。

カンキツ類

1 ミカンハダニ（やや少）

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率25.9%（平成43.8%）は平成よりやや少なく、寄生葉率2.3%（平成12.8%）は平成より少である。

[防除上の注意]

- 1) 果実に寄生すると外観を損なうので防除を徹底する。
- 2) 生息密度が高くなると防除効果が劣るので、寄生葉率30%、10葉当たり虫数5～10頭を目安に、増殖初期に防除を行う。

果樹全般

1 果樹カメムシ類 (並)

[予報の根拠]

- 1) 県内5か所に設置された予察灯では、一部地域(都城市、日南市)で8月4~5半旬にやや多く誘殺されたが、9月以降、チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシともに誘殺数が減少傾向にある。
- 2) 県北地域の一部のミカン園では8月下旬に飛来が確認されている。

[防除上の注意]

- 1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動するので、園内外を見回り、早期発見・早期防除に努める。

チャ

1 炭疽病 (やや少)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率36.8%(平年51.3%)は平年よりやや少なく、m²当り病葉数0.9(平年5.4)は平年より少ない。

2 チャノコカクモンハマキ (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬のほ場での発生は未確認である。
- 2) 都城市及び三股町に設置したフェロモントラップ調査では、8月6半旬~9月1半旬に発蛾最盛期があり平年並である。

3 チャハマキ (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬のほ場での発生は未確認である。

4 チャノホソガ (やや少)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率26.3%(平年57.5%)は平年よりやや少なく、m²当たり巻葉数1.4(平年3.4)は平年より少ない。

5 カンザワハダニ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の発生面積率42.1%(平年34.4%)は平年よりやや多、寄生葉率3.2%(平年2.7%)は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 同一薬剤、系統の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ-テ-ション散布を実施する。

6 チャノミドリヒメヨコバイ (やや多)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の見取り調査による発生面積率26.3%(平年27.1%)は平年並、寄生葉率1.7%(平年1.4%)は平年よりやや多い。

7 チャノキイロアザミウマ (並)

[予報の根拠]

- 1) 9月中旬の見取り調査による発生面積率21.1%(平年28.8%)は平年よりやや少、寄生葉率1.5%(平年2.4%)は平年並である。

その他

- 1 防除上の留意点等については、「病害虫・雑草防除等指導指針」(宮崎県・宮崎県植物防疫協会)を参照するが、農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。

日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>

- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤(商品名、マリックス乳剤、粒剤等)は使用しないこと。

3 発生量(程度)の区分

多い	(高い)	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い	(やや高い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並		平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない	(やや低い)	平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない	(低い)	やや少ないの外側10%の度数の入る幅 (平年値は過去10年間の平均)

4 予察情報の種類

病害虫防除所から発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報・・・向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 2) 注意報・・・主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 3) 警報・・・主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 4) 特殊報・・・県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
- 5) 防除情報・・・注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指導情報について随時発表する。(従来の防除速報にあたる)

お知らせ(<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病害虫防除所では、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を登録しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病害虫防除所 櫛間

TEL : 0985-73-6670

FAX : 0985-73-7499

E-mail : ykusima@pref.miyazaki.jp